

## 第2回経済社会・科学技術イノベーション活性化委員会向けメモ

Digitalization 加速に向けた  
トータルイノベーションエコシステム構築について平成28年10月6日  
(株)日立製作所 取締役会長  
中西宏明

・日本がコンセプトとして掲げる Society5.0 は Digitalization で経済成長と社会課題解決の両立を図る取組み（社会コンセプト）であるが、世界中でも Digitalization が加速している。改革のペースを加速するために、日本のイノベーション環境（社会の仕組み、制度、政府予算、大学改革等々）全体を俯瞰した トータルイノベーションエコシステム を念頭に推進することが必要と考える。

・ Innovation cities は、以下の4つの構成要素が、それぞれのダイナミックな変化に追従しながら、うまく回ることでダイバーシティある人財を引き込み、イノベーションを次々と創出している、と分析されている。

- ① Anchor institution : 核となる大学や研究所の存在
- ② Innovative companies : イノベティブな企業群
- ③ Venture Capital and/or Incubators : 出資者
- ④ Government support

・現状の制度、予算、分野毎等個々の施策の議論から、トータルエコシステムの議論へとステップアップし、この上位のトータルエコシステムの議論から、個々の施策に繋ぐ取組みが必要である。トータルエコシステムを回す仕掛けの構築と、ダイナミックな変化に追従しながら PDCA を回すことは、CSTI の指令塔強化そのものである。

・CSTI で推進している現 SIP は、省庁連携をターゲットとして、産業界やアカデミアが参加する形でスタートした。上記の4つの構成要素が連携できているテーマは成果のインパクトも大きいですが、そうではないテーマは成果も限定的ではないか。

・「科学技術イノベーション官民投資拡大イニシアティブ」の議論では、個々の要素議論を統括し全体俯瞰を行うトータルイノベーションエコシステム構築の観点についても検討いただきたい。

以上